

ひまわり

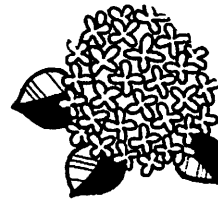
からの
メッセーじ

3号

2011.6.14
西濃園域
発達支援センター
ひまわり

発行人: 中野:みづ

紫陽花によせて



庭先のおじさいが少しずつ色を重ねてきています。一足はやく咲きはじめてカシワバアジサイは、下からせり上がるように花をつけ、木々の下蔭で白を際立たせています。

紫陽花は雨に似合う花だと思ひます。うっとうしく感じる梅雨の季節に、ふと心安らぐ思いにさせてくれる花ですね。私たちが日頃「おじさい」と言っているのは、青やピンク、紫など色を変えていきますが、原種はガクアジサイなのだそうです。おじさいの学名は「オタクサ」と言ひ、かの有名なシーボルトが日本人妻の名をとってつけたとも言われています。お滝さんってどんな女性だったのかと想像してみても悪くありませんね。

ところで、園長を退いて二ヶ月が経ち、昨年度までに増して忙しく動き回る生活になりました。保育園や幼稚園、学校などに伺うことも多くなり、「乳幼児期から途切れのない支援を」という思いは益々強くなっています。みんなが真剣に子どもたちのことを考え、支えていかないと……という思いが、時としてお母さんたちを苦しめているのではないかと反省することもありました。

子どもたちを育てていく時、私たち大人の根底になければならないのは、子どもたちに寄り添う心です。それがなければ何も始まりません。けれど、寄り添うということは、子どもたちに「何をしてもいいのだ。自分の思い通りに何をしても許されるのだ」という学習をさせることではありません。子どもの行動のうらに在る子どもたちの気持ちを知った上で、社会のルールを教えることが大事です。幼い時から「ごっこ遊びや模倣が苦手」という子どもたちは生活の中で自然におぼえていくことは難しく、小さいからといって何でも許していくことは、二次障がいにつながりかねません。

私は雨に咲くおじさいのようにはなれないなあ……と思ひつつ、年を追う毎に過激になっていく自分を恥じています。

子どもたちが 困ってしまうことは

五月のセンター親の会の折に、「わが子が困ったことはを思い出してみよう」と、各々のお母さんに書いてもらいました。

「その時は憶えていたんだけど……」と言いながう書いて下さったので、ご紹介しておきましょう。

その時、どう言えば良かったかを考えるのも大切ですね!!

① 今朝・今晚……今日の朝・今日の晩はわかる。
② 今週・今月……六月とか七月ならわかる。

今週はむづかしい。

③ ニニ・そこ
あれ、あっち……テレビの上とか具体的に言えばわかる。学校では、「ニニを書いて

下さい」と言われても？、

④ どう？なに？……質問の時よく言われるが……？、

⑤ あと少し……何時何分までだろう？、

少しの間」……具体的に言われないとわからない。

⑥ 何番目……自分の体を使って並び順は教えてほしい。家では、「ひき出しの何番目」とか

タオルをたんだ物で「上から何枚目」とか教えてみよう。

⑦ 「たし算？」「ひき算？」

計算式はできても文章題ができない子は多い。ことばの意味がわからない。ことばからイメージできないということですが……？、

例えば「合わせて」「みんなで」は「たし算」で、「残りは」「余りは」は「ひき算」というように、ことばと計算式を一致させてみたり、文章題の状況をイメージさせるために絵を書いてみたりしてはどうでしょう？、

⑧ 数字はわかる。でも、ひとつ、やつなどは？、

「一」と「一」、「二つ」と「二」が結びついていないことはよくある。言い方がかわるとわからないので、教え方はちがっても同じ数だという認識をもたせたい。

⑨ 左右はわかって一八〇度回転すると……？

とっさに言われると左右がわからない。

「左側にある〇を取って」↓「倒って何？」

⑩ 「何ですか？」「どうしてですか？」

質問されている意味がわからない。

⑪ 言われたことは間違って受け取る。

⑬ 「片手」↓肩に手を置く。

「プリントを回して」↓配らずに……

「道のはしに寄って」↓田んぼに落ちる。

「自分で考えて書いて」↓自分の名を書く。

「後に置いて来て」先生はロッカーを指したのだが

↓自分の体の後に置く。

⑫ 「行った」「来た」の区別

⑬ 時刻と時間

⑭ 「ちがいはいくつ？」「どちらが多いでしょう？」

⑮ 助詞がわからない。「三と四でいくつ？」「七は三といくつ？」

⑯ 「早くして!!」

実はもっとたくさんありました。年令によっても、学習内容でも、子どもたちが困ることは違っています。

幼稚園では、「みんな」「皆さん」の呼びかけに対して、

自分はその中に入っていないと思って行動をおこせない子も

いるでしょう。「ここに集まって」と言われても「ここ」がわ

からない子もいます。「オルガンに集まって」と、もう少し

わかりやすいでしょう。「ここ」という指示代名詞よりは具体

的ですから……。副詞の「もっと」「およそ」「すぐ」「

きちんと」「ちょっと」というようなことは、具体性に乏

しいので、子どもたちには理解しにくいのです。一見おしゃ

べりでわかっているように見える子どもの中にも、ことばに

困っている子は数多くいるのです。

就学すれば、子どもたちには勉強が待っています。一つ

一つのことばの意味がわからず、しかし自分がどこで困って

いるかがうまく伝えられず、先生に「わかりましたか？」と

たずねられれば「わかりました」と答える子、でも本当

は分からないままに日は過ぎていってしまうのです。

お母さん方も、自分のお子さんがどんなことばでつまづくのか、知っておきましょう。

一番でなくちゃダメ!!

一番病は幼児期に

家庭で対策を



先日、ある講演会で、こんな質問が出ました。

「年長クラスの子で、何でも一番でないとダメなんです。

一番じゃないと怒って暴れるので、クラスの子たちも「いいよ」とゆすってしまいます。これでいいでしょうか？」

もちろん、これで良いはずはありませんね。このままでいいなら、自分の思い通りにならないと暴れて自分の意思を通すことを学んでいくだけです。

私は二つのことを提案しました。

一つは家庭で、かるた取りやトランプゲームをしてもらうことにしました。二、三回はお母さんが負けて「くやしい!! 今度は絶対に勝つ!」と言って、四回目はわずかな差で、お母さんが勝つのです。そして、お子さんに「くやしいね、もう少しで勝てたのにね...」と、言ってあげましょ

う。そこで怒って暴れた時は、なぐさめようとはせずに「負けても暴れません!」と、しっかりと受け止めてあげましょ。家庭で要求が全て通る生活でも、集団の中では、年令が上がるにつれて孤立してしまいます。「一番でなくてもがまんできて、えらいね」と、大好きなお母さんにほめてもらえれば、お子さんにとって、力になるはずです。

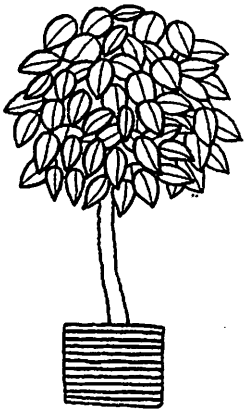
誕生日のお祝いの時にも、チャンスがあります。「今日はママの誕生日だから、一番にママがケーキを選んでいいよ」というルールです。主役が一番に選ぶというのは当然のルールですものね。

園生活では、グループ毎の順番からスタートしてみてください。先生の所に折り紙を取りに行くのは、〇グループから順番です。でも、その子のいるグループは、二番目にして下さい。最後のグループでは待つていられませんから……。そこで待てたり大いにほめてあげられます。でも物を投げたり、ひっくり返す時は、投げた物は本人に拾わせましょ。物を投げたら大人が片づけてくれるというのでは、いつまでたっても「投げてはダメだ」ということを学んでいくことはできません。

くどくどと叱りつづける必要はありません。「物は投げません」と言うだけでいいのです。「お友だちに当たったかどうか?」危いでしょう?、けがをしたかどうか?、するの?」などと言っても聞いていませんから……。

幼児期は小さくてかわいいので「まあ、いいや」と、すごしてしまいがちですが、小さい時だからこそ、自分かじでかしたことの後始末はしっかりさせましょう。

小さい時に見すぎされたことが、体力がついてきた時には家庭内暴力にもつながりかねません。かまんできた時、がまんしようとした時には必ずほめて認めてあげることに、これは忘れないで下さいね。一番でないとダメだという一番病、や順番を守れないということは、幼児期に気づいたり、せめて、就学前には家庭でも園でも意図的にかかわって、子どもたちが将来困ることのないように、手だても考えていってあげましょう。



不登校について

不登校というのは、状態像を示すことばで、診断名ではありません。疾患や特定の原因がなくて、年間三十日以上欠席がある場合、不登校として調査されるということである。

子どもが「学校に行きたくない」と言った時、どうしたらいいのだと迷う保護者の方も多いのではないだろうか。

最近の研究では、不登校児の三分の一二分の一は発達障がいの子であるとも言われていて、発達障害が原因と考えられる場合の対応は、「登校しなくなるまで待つ」という対処法は不適當であると言われる。以前は「学校に無理に行かせるのはよくない。行きたいと思うまで待っていた方がいい」と全ての不登校の子に対して言われていたことが、広汎性発達障がいの子どもの不登校を長期化してしまっていると考えられるようになった。登校が日常であるから登校するのであって、在電が日常になれば再度学校へ行くことは困難になってしまうのである。

以前、アスペ、エルデの会の石川道子先生（小児科医）

が、誤学習について話されたことがある。

学校に行きたくないからといって家で好きなおやつを食べ、好きなDVDを見て過ごせば、「やった!!」ばくは学校へ行かなくてもいいんだ。こうやって家ですごした方が楽しいし……。」ということになるわけです。しかもお母さんがそれを認めてくれたということであれば、お墨つきをもらったのと同然ですから、不登校は定着(?)してしまします。

このような誤学習は、様々な生活場面で見られることです。自分の気に入らないことがあって大声をたてたり暴れてみたり、自分の思い通りになった……。」という経験をしたら、次も、その次も同じ様な手段を使うことにするので、もしも、何回目かに「こんなことしていたらダメだ。」と考え直した大人が、多少の大声では動じなかったら、今までよりも、もっともっと大声を出し、暴れてみる……。」と、エスカレートしていくこともあるでしょう。

私たちが生きていく時、一番必要な力は何でしょう?、勉強ができること?、自分の思いが話せること?、特別な才能があること?、考える力?、財力?、色々あるけれ

ど私は、他人とかかわっていく力だと思っております。自分の要求や思いを人に伝えること、そして相手の話にも耳を傾けること、自分の要求や思いに対しても、相手に対しても折り合いをつけていく力が必要だと思っております。

勉強が大好きだという子どもは、どの位いるのでしょうか?、毎日、学校へ来るのが楽しくて仕方がないという子はどの位いるでしょうか?

できないこと、分らないこと、嫌なことを放り出すのではなく、「やってみよう!」と思えることが大切です。それは自分の気持ちに折り合いをつけることでもあります。

お知らせ



・六月十四日(火) センター親の会 九、三〇〇

医療機関で渡される文書の見方、WISC-IIIの見方、分析などの勉強会

・親の会は、九月以外は全て第二火曜日です。

九月は六日(才一火曜日です)